



令和6年度前期学校評価アンケートについて

令和6年度 前期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

7月に実施した前期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間 令和6年7月1日～7月12日

◇対象者 白河総合支援学校生徒・保護者・教職員

◇方 法 ・アンケートフォーム（Forms）およびアンケート用紙にて回答
・各項目の「適合度」を4段階で評価
・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析

◇回答率 生徒 98% 保護者 89% 教職員100%

◇分析結果 ・百分率で数値を表記
・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析
・【服務】については、教職員のための項目として分析
・肯定的回答85%以下、否定的回答15%以上の項目は で表示
・昨年度との比較で、肯定的回答が5%以上の向上が見られた項目は 、肯定的回答が5%以上の低下が見られた項目は で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組んでいるか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

分野		教職員					保護者					生徒			
		肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比		肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比		肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比
確 かな 学 力	1 個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行なっている	100%	0%	0%	0%	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がされている	98%	0%	2%	0%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	91%	-1%	9%	1%
	2 生徒や保護者に短期目標と評価、実習の目標と評価を伝えている	98%	-2%	2%	2%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	97%	2%	3%	-2%	今、現在の自分の目標がわかっている	89%	3%	11%	-3%
	3 生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を用意している	98%	-2%	2%	2%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	93%	2%	7%	-2%	目標に向かって学習に取り組んでいる	87%	-4%	13%	4%
	4 生徒は満足感や達成感をもち、専門科（地域協働）の学習に取り組んでいる	96%	-4%	4%	4%	子どもは専門科（地域協働）の授業に満足感や達成感を感じている	92%	4%	8%	-4%	専門科（地域協働）の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	87%	1%	13%	-1%
	5 生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	96%	3%	4%	-3%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	84%	0%	16%	0%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	77%	-4%	23%	4%
	6 生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	100%	0%	0%	0%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	92%	4%	8%	-4%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	88%	-5%	12%	5%
	7 生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている	93%	1%	7%	-1%	子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	89%	0%	11%	0%	一生懸命働くという気持ちや職場で必要な態度が身についている	89%	-7%	11%	7%
	8 生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	96%	-2%	4%	2%	子どもの努力や達成度が評価されている	93%	-2%	7%	2%	先生は、学習の成果（できるようになったこと等）を伝えてくれる	95%	3%	5%	-3%

多数の質問項目において、肯定的回答が85%以上となっています。保護者の『子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている』、生徒の『教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目においては、他の質問項目よりも肯定的回答が低くなっており、生徒の『職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目も昨年度と比べて-5%でした。生徒が「できたこと」「頑張れたこと」など、自分の成果や成長に気づき、達成感や充実感が得られるよう、ねらいや課題を具体的に伝え、生徒が自分自身の目標や課題を明確に理

解し、「何のためにやるのか」という目的意識を持ちながら学習に取り組める環境づくりが大切です。合わせて、生徒が自分自身の成長に気付けるよう、生徒の課題に取り組む姿勢や成果を即時評価することが重要であると考えます。伝え方・提示の仕方・教材選択などを工夫しながら授業づくりに取り組み、生徒が目的意識を持って主体的に学ぶ学習環境を整えることで、意欲的な姿を引き出し、達成感や満足感を感じられる授業が展開できるよう尽力してまいります。

また、生徒の『一生懸命働こうという気持ちや職場に必要な態度が身についている』の項目では、昨年度と比べて－７％となりました。自分を知り、自分と向き合い、自分の思う描く将来の姿を具体化していくことで、自分のやるべきこと、身につけるべき力などの目標や課題が明確になると考えます。そして、進むべき道が見えてくることで、主体的かつ意欲的に活動する姿に繋がると考えます。『キャリアカウンセリング』や『キャリアアドバイス』の時間をさらに充実させ、自分の思い描く将来の姿の具体化に努めてまいります。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかわる内容について尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	保護者	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	生徒	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比
豊かな心	9	生徒の良いところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	96%	-2%	4%	2%	子どもには良いところや得意なところがある	99%	5%	1%	-4%	自分の好きなところや得意なことをよく知っている	89%	3%	11%	-3%
	10	生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	93%	-1%	7%	1%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	93%	4%	7%	-4%	自分はだれかの役に立っていると思う	59%	-7%	41%	7%
	11	生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人權を尊重した言葉かけや指導・支援を行っている	98%	0%	2%	0%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な言葉かけや指導をしている	92%	-1%	8%	3%	先生はわかりやすく丁寧な言葉づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	92%	2%	8%	-2%
	12	生徒が友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	96%	1%	4%	-1%	子どもは友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	90%	-3%	10%	3%	友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	87%	-7%	13%	7%
	13	生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	98%	3%	2%	-3%	子どもは自分から積極的に挨拶している	77%	-2%	23%	2%	自分から元気よく挨拶ができる	79%	-2%	21%	2%
	14	生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	98%	8%	2%	-8%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	92%	1%	8%	0%	学校のきまりや約束を守っている	90%	2%	10%	-2%
	15	生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	87%	-6%	13%	6%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	86%	4%	14%	-4%	家庭で決まった役割（例えば、お手伝い）があり、実行している	79%	-2%	21%	2%
	16	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	96%	-2%	4%	2%										
	17	学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	71%	-3%	29%	3%										
	18	生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している	87%	-8%	13%	8%										
	19	保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している	89%	-1%	11%	1%										

各質問項目において、おおむね肯定的回答が高くなっています。生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の質問項目の肯定的回答が５９％となっており、さらに昨年度と比べて－７％の低い数値となっています。また、生徒の『家庭で決まった役割があり、実行している』の質問項目の肯定的回答は、７９％となっています。一方で、教職員の『生徒が自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」と思いを促すような活動を用意している』の質問項目で９３％（前年度比－１％）、保護者の『子どもには家庭で決まった役割があり、実行している』の質問項目で８６％（昨年度比＋４％）と、肯定的な回答が高なっています。誰かの役に立っている、貢献している等、自分が有用であるという感情である自己有用感を高めることは、自分自身を認め、自己肯定感を高めることに繋がります。生徒の思いに寄り添いながら、目標と役割を決め、行動や成果だけでなく、目標に対して努力した過程を認めていることを伝え、結果に関わらず生徒自身の姿を認めることが大切です。普段からたくさんコミュニケーションを取り、生徒に寄り添いながら、それぞれの姿を認め、生徒自身が自信を持って主体的かつ積極的に活動できる学習環境を作っていきます。

保護者の『子どもは自分から積極的に挨拶している』、生徒の『自分から元気よく挨拶ができる』の質問項目で肯定的回答が７０％台とやや低い数値（昨年度比－２％）となっています。挨拶はコミュニケーションの基本であり、会話のきっかけとなることからコミュニケーションの入り口と言われています。そして、円滑な人間関係を築くための大切な行為であり、挨拶ができることは社会人に求められる大切な力の一つです。今後も挨拶の

大切さを伝えながら、日頃から挨拶を交わし合う環境を作っていきます。挨拶を交わすことの心地よさを感じることで、自然と挨拶をする習慣が身につくと考えます。生徒会が主体となって『あいさつ運動』の取組を行うなど、学校全体で挨拶を大切にする意識を高めていけるよう、生徒と教職員が一つになって取り組んでいきたいと

思います。

教職員の『学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している』の質問項目の肯定的回答が71%（前年度比-3%）となっています。今後も生徒が安心して学校生活を送れるよう、学校のいじめ対策委員会の組織を生徒に啓発し、教職員が一丸となっていじめを防止するために日々努めていることを伝えていきたいと思

【健やかな体】

この項目では、健康に関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	保護者	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	生徒	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比
健やかな体	20	生徒に適切な食生活を送れるように指導している	84%	-8%	16%	8%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	79%	-6%	21%	6%	朝ごはんをきちんと食べている	78%	-1%	22%	1%
	21	生徒に衛生に関する指導・支援を行なっている	91%	-6%	9%	6%	子どもは日常的に清潔しようと心がけている	93%	-3%	7%	3%	清潔にすることを心掛けている（例えば、毎日の入浴や着替え、汗をこまめに拭くなど）	95%	-1%	5%	1%
	22	性と生について、生徒が正しく理解し、適切な行動が取れるように指導・支援を行っている	89%	-	11%	-	子どもは性と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている	83%	-	17%	-	性と生について学習し、自分の身体を大切にしながら生活している	94%	-	6%	-
	23	休日等を実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	80%	-10%	20%	10%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	89%	0%	11%	1%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	71%	2%	29%	-2%

教職員の『生徒に適切な食生活を送れるよう指導している』の質問項目で肯定的回答が85%を下回り、前年比-8%となっています。また、保護者の『子どもは朝ごはんをきちんと食べている』、生徒の『朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目も肯定的回答が70%台とやや低い数値を示しています。働く生活を送るためには、栄養や休養をしっかりととることは欠かせません。特に朝ごはんは、一日のはじめの大事なスイッチです。朝ごはんを食べて、栄養を補給し、脳や身体をしっかりと目覚めさせるスイッチを入れることは大切なことです。朝ごはんをしっかりとすることで、体温の上昇とともに脳を活性化させ、「やる気」と「集中力」が出て、一日の活動効率やパフォーマンスを上げることができます。また、生活リズムを整えたり、よく噛んで食べることで精神を落ち着かせる「セロトニン」が分泌されたりと、朝ごはんを食べることによって得られるメリットが多くあります。今後も生徒が食事の大切さに気付けるように、教科の学習だけでなく、様々な場面で適切な食生活の指導を行うよう努めてまいります。

今年度より新設した『性と生』についての質問項目については、肯定的回答が教職員89%、保護者83%、生徒94%と比較的高い数値となっていますが、保護者の肯定的回答は85%を下回っています。今後も『性と生』の学習について、外部講師による授業を用いるなど、様々な角度からアプローチすることで、正しい知識を持ち、自分の身体の成長について理解し、自分の身体を大切にする態度を育めるよう、継続して取り組んでいきたいと

思います。

生徒の『休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる』の質問項目は、肯定的回答が71%となっています。また、教職員の『休日等を実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するよう促している』の質問項目は、80%（昨年度比-10%）となっています。将来、社会人として仕事にモチベーションを持って取り組み、会社や社会に貢献するためには、休日の過ごし方を充実させてことはとても大切なことです。自分なりの充実した休日の過ごし方を見つけることで、ライフワークバランスを整え、質の高い生活を送ることに繋がります。今後も趣味の幅を広げたり、好きなことに没頭したり、余暇を思う存分楽しめる時間が持てるよう、自己理解を進めて自分を知ることや、ICTを活用して情報を収集することなどを学習するとともに、様々なことにチャレンジする気持ちを育てていきたいと

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	保護者	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	生徒	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比
独自の項目	24	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	100%	0%	0%	0%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	93%	2%	7%	-2%	企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	95%	-3%	5%	3%
	25	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	100%	0%	0%	0%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	90%	-3%	10%	3%	地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	90%	-1%	10%	1%
	26	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	100%	0%	0%	0%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	95%	-1%	5%	1%	地域や企業等、学校外で学ぶ経験をするこ とで、校内でもより一生涯に学習すること ができる	92%	1%	8%	-1%
	27	情報モラルについての指導を積極的に行なっている	96%	1%	4%	-1%	子どもはルールやマナーを守って情報機器 やSNSを使用している	91%	5%	9%	-5%	決まりやルール、マナーを守って情報機器 (スマートフォンやタブレット)やSNSを使用 している	93%	1%	7%	-1%

各質問項目において、肯定的回答が90%台の高い数値となっています。今後も、企業や地域と連携し、幅広い学びの場を設定し、様々な場所、人、ものとのかわりの中で、生徒がいきいきと学習できるよう、学びの環境をデザインしていきたいと思います。様々な経験を通して、自分を知り、なりたい自分を想像し、目標を持つことで、やりがいや使命感を持って活動する姿に繋がっていきたいと考えます。

【サービスの項目】

この項目は、教職員のための項目です。働き方に関することについて尋ねています。

分野		教職員	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比
サービス	28	報告・連絡・相談を意識して行い、情報の共有に努めている	96%	1%	4%	-1%
	29	業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	93%	22%	7%	-22%
	30	職務の効率的な遂行を心掛けている	98%	5%	2%	-5%

『業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている』の項目で、肯定的回答が昨年度と比べて22%高くなりました。働き方改革の取組の成果が数値に表れていると考えます。今後は、教職員が心身ともに健康で仕事に向かえるよう、“働き方改革”だけでなく“働きがい改革”を進めていきたいと思います。教職員一人ひとりが“働きがい”を実感し、持続的な成長を果たせる環境を目指します。教職員が生徒の身近な社会人のモデルとして、生き生きと働ける環境を整えていきたいと思います。そのために、“働きやすさ”と“やりがい”を向上していけるよう、課題や改善点を見極めながら取組を進めていきます。教職員の日々の生活や教職人生をウィルビーイングなもの（身体的・精神的・社会的に満たされた状態）になることが、教育の質の向上に繋がると考えます。